



このドキュメントではバージョン6.8.2で新たに追加されたコマンドについて説明します。

SMTP_Auth

SMTP_Auth(smtp_id;authUserName;authPassword) → 整数

引数	タイプ	説明
smtp_ID	倍長整数	→ メッセージのリファレンス
authUserName	文字列	→ 「SMTP Auth」 認証に使用するユーザ名
authPassword	文字列	→ 「SMTP Auth」 認証に使用するパスワード
Function result	整数	← エラーコード

SMTP_Auth コマンドを使うと認証が必要な SMTP サーバへ、引数<smtp_ID>で参照されるメッセージを送信することができます。認証が必要でないサーバに対しても利用可能です。実際には引数<UserName><authPassword>が空でない時にしか認証処理は実行されません。

このコマンドは、“CRAM-MD5” や “PLAIN and LOGIN” のような認証機構を利用可能です。いくつかの SMTP サーバで要求されるこのタイプの認証機構により、改ざん、なりすましのリスクを軽減します。これは特にスパムメールの不正リレー行為への対抗策となります。この機構は、ユーザは特に意識せずに利用できます。

引数<smtp_ID>は、SMTP_New コマンドで作成されたメールメッセージへの倍長整数の参照番号です。

引数<authUserName>は SMTP サーバへの認証付きログインのユーザ名です。値にはドメイン名は含みません。例えば、“jack@4d.com”なら、引数<authUserName>は “jack” です。

引数<authPassword>は SMTP サーバへの認証付きログインのパスワードです。

注：もし引数<authUserName><authPassword>が一方でも空だと、SMTP_Auth コマンドは何もしません。

▼このサンプルコードは、メール送信処理に際して、4Dデータベースの特定のフィールドの内容に応じて臨機応変に認証付き／無しのアクセスを行っています。

C_INTEGER(\$vError)

C_LONGINT(\$vSmtpl_id)

C_STRING(30;\$vAuthUserName;30;\$vAuthPassword)

\$vError:=**SMTP_New**(\$vSmtpl_id)

\$vError:=**SMTP_Host**(\$vSmtpl_id;"wkrp.com")

\$vError:=**SMTP_From**(\$vSmtpl_id;"herb_tarlick@wkrp.com")

\$vError:=**SMTP_Subject**(\$vSmtpl_id;"Are you there?")

\$vError:=**SMTP_To**(\$vSmtpl_id;"Dupont@wkrp.com")

\$vError:=**SMTP_Body**(\$vSmtpl_id;"Can we have a meeting?")

　このフィールドには、認証機構を使用しているサーバである場合にのみ、
　何らかの値が保持されています。認証機構を利用しないサーバの場合は空です。

\$vAuthUserName:=[Account]AuthUser

\$vAuthPassword:=[Account]AuthPass

\$vError:=**SMTP_Auth**(\$vSmtpl_id;\$vAuthUserName;\$vAuthPassword)

\$vError:=**SMTP_Send**(\$vSmtpl_id)

\$vError:=**SMTP_Clear**(\$vSmtpl_id)